

第3回新丸山ダム水源地域協議会 議事概要

日時：令和4年9月20日（火）10：00～11：40

場所：八百津ファミリーセンター研修室1, 2

■開会挨拶（加納 新丸山ダム工事事務所長）

- ・この地域には豊かな自然はもちろんですが、美しい景色や歴史、文化、美味しい食など、地域資源が豊富にあります。
- ・こうした地域資源と交通ネットワークを上手につなげて活用し、連携を図ることで、地域の魅力づくりや地域の活性化がさらに進んでいくと思います。
- ・また、新丸山ダム建設事業は建設中でありますので、整備の段階から地域振興を意識し、工夫することで次につなげる整備も可能となります。
- ・これまでの検討成果を共有し、地域振興の柱となります共通の方向性や考え方、また、その実現に向けた取組について、多くのご意見、ご要望を頂きたいと思います。
- ・新丸山ダム建設事業を一つの材料として、周辺地域の魅力づくりや地域の活性化につなげて頂きますよう、協議会の皆様としっかりタッグを組んで進めて参りたいと思いますので、引き続き、ご協力、ご支援の程、宜しくお祈りします。

■議事

(1) 新丸山ダム水源地域協議会の規約改正について

- ・事務局より「新丸山ダム水源地域協議会規約改正について」説明を行い、出席会員の全員一致で同意を得た。
- ・新丸山ダム水源地域協議会規約は、令和4年9月20日付で施行された。

(2) 今年度の進め方について

- ・事務局より、新丸山ダム周辺地域振興ビジョンの策定に向けた「今年度の進め方について」説明を行い、出席会員の同意を得た。

(3) 新丸山ダム水源地域協議会のこれまでの検討結果について

- ・事務局より、「新丸山ダム水源地域協議会のこれまでの検討結果について」説明を行い、出席会員の同意を得た。

(4) 新丸山ダム周辺地域振興ビジョン（骨子）」について

- ・事務局より、「新丸山ダム周辺地域振興ビジョン（骨子）」について説明を行った。
- ・説明資料の1ページ目「本ビジョンの位置づけ」に「関係者からも意見を聞き～」と記載されているが、「関係者」は誰を指すのか質問を頂いた。関係者は、各市町の担当者や民間事業者等を指す旨、回答した。

（水野 瑞浪市長）

- ・各市町の取り組みをどのように連携していくかが重要なポイントになる。
- ・御嵩町とは中山道ウォークや鬼岩温泉等で既に連携している。今後は、他の市町やダムとも連携し、地域振興として具体的に何を実施していくかが重要だと思う。

（小坂 恵那市長）

- ・連携が1番大切でキーワードになる。
- ・歴史的な背景や、ダムの持つ意味等、色々な切り口で連携のストーリーを立てることが重要になる。

（金子 八百津町長）

- ・各地域の資源は素晴らしいものがあるので、本協議会を活用して地域振興について協議していきたい。

（渡邊 御嵩町長）

- ・各地域資源は素晴らしいものがあり、陸路と水上のアクセスを組み合わせ丸山ダム周辺を回遊するなど、本協議会を活用して連携内容について協議していきたい。

（小森 関西電力(株)東海支社長）

- ・各自治体の地域資源は非常に魅力的であるため、組み合わせれば良いものができると感じている。
- ・リピーターを取り込み、一定の季節に関わらず年中通して来訪できる施策を考えることが重要と思う。

(5) 意見交換について

- ・各自治体や関係機関より、地域振興における取り組み状況（現状・将来像）についてご説明頂いた。

1) 水野 瑞浪市長

- ・瑞浪市と恵那市を繋ぐ国道 19 号「瑞浪恵那道路」が全線供用開始されると、地域のアクセス性が向上する。また、中津川市に新設されるリニア中央新幹線は当該地域にとって大きなチャンスであり、準備を進めている。「瑞浪恵那道路」は広域来訪者のアクセス道路としても重要であると考えている。
- ・瑞浪市と恵那市では、各々で新たなコンセプトの道の駅を新設予定である。
- ・瑞浪市も少なからず歴史も文化もあるが、まだまだ一地域の魅力に埋もれてしまっており、メジャーな魅力になっていないことが今後の課題と考えている。
- ・大湫宿の国の登録有形文化財を①案内所・休憩所、②地元の食材を使った飲食店、③民泊施設等に改装中であり、瑞浪市固有の歴史・文化の発信に力を入れている他、相生座では、有志 10 名程で歌舞伎を見せるなど地域文化の発信を行っている。
- ・このような取り組みは好評な状況です。
- ・新丸山ダムの建設に伴い新五月橋が建設されるが、その活用方法について地元住民の方と意見交換を行い、五月橋のたもとの駐車場整備や、木曾川と触れ合うような空間を五月橋の麓につくるため、県道から木曾川に下りる遊歩道整備などの意見をいただいている。

2) 小坂 恵那市長

- ・恵那市は、令和元年度に観光ビジョンを策定しており、岩村城・恵那峡・日本大正村が 3 大観光資源である。観光客が最も来訪しているのは、3 箇所の道の駅で、1 年あたり 200 万人ほど来訪している。
- ・五平餅、栗きんとんの他、へぼ料理が地域特有の食であり、多くの人に召し上がって頂きたい。
- ・令和 3 年にグランピング施設（根の上アウトドアパーク恵那 保古グランピング）を新設し、あわせて全て地元の食材などを利用する工夫をしたところ大変盛況な状況。まだオープンしたてなので、今後継続できるかが大きなポイントになる。
- ・笠置峡のボート・カヌー場は、東京 2020 オリンピックの際にポーランドが事前キャンプを実施し（関西電力が協力）、知名度が向上した。
- ・リニア中央新幹線の影響を期待している他、国道 418 号の建設により恵那ー八百津間のアクセス性が向上し、現状より 1 時間弱時間が短縮するため、当該地域を訪れる人が増加するなどの効果を期待している。
- ・八百津町に隣接する恵那市飯地町では、飯地高原テント村のリニューアルに伴い、来訪客数が増加している。また、芝居小屋「五毛座」で実施した歌舞伎が好評で、継続的な開催が望まれている。
- ・笠置山周辺には、望郷の森のキャンプ場や栗園、棚田、クライミングエリア、モーターパークなど、魅力ある施設がある。
- ・新丸山ダム建設に関しては、七号橋（八百津町と恵那市飯地町をつなぐ）の建設に大きな期待をしており、今年度の補正予算で、飯地町で何ができるかプランニングを検討している。
- ・恵那市の担当者が観光の 1 プランとして、ダムツーリズムを検討している。新丸山ダムと共に、大井ダム・阿木川ダム・矢作ダム・小里川ダム等があるため、各ダムの魅力を巡ることが 1 つの楽しみであると考えている。
- ・大井ダムは建設から 100 年経つが、ダム建設によって生まれた恵那峡や宿泊施設・土産物施設等、観光地として栄えている。小里川ダムも道の駅「おばあちゃん市・山岡」と共に、目的地化されている。新丸山ダムも同様にそのような施設になることを望んでおり、ダムと周辺地域を含めて楽しんでもらえるようになると良いと思っている。

3) 金子 八百津町長

- ・新丸山ダムの建設に伴う残土置き場及び周辺の利活用について、八百津町役場内にワーキンググループを結成し、「新丸山ダム周辺公園整備プロジェクト」として、八百津町内をゾーン分け（商業ゾーン・水アクティビティ・山アクティビティ・パーク等）して、各ゾーンを移動手段で繋ぐことで、八百津町を丸一日楽しめる計画を立案している。
 - ▶商業ゾーン 1（残土置き場周辺）：道の駅、子供向けの室内公園、全天候型の BBQ 施設
 - ▶商業ゾーン 2（旧八百津発電所周辺）：旧特別養護老人ホーム敬和園を活用した温浴施設、旧八百津発電所を活用した施設の整備
 - ▶水アクティビティゾーン（みなと広場・ダム湖周辺）：水上自転車、ラフティング、水陸両用バス等

- ▶山アクティビティゾーン（瞑想の森周辺）：バギーロード、フォレストアドベンチャー、ボブスレー等
 - ▶パークゾーン：高台のジップライン、アウトドア施設
 - ▶新丸山ダム：夜間に堤体をスクリーンとして活用した屋外シアター等
- ・関西電力（株）・新丸山ダム工事事務所のノウハウや、事業者となる民間事業者の参画、2市2町の協力が必要であるが、将来的に本プロジェクトを基に、「アウトドアタウン」として整備していきたい。

4) 渡邊 御嵩町長

- ・御嵩町は歴史あるまちであり、国の重要文化財である願興寺を再建中である。
- ・それぞれの市町の伝統とか、施設を共有し、連携を図ることが重要と考えている。
- ・歴史、文化を体験できる中山道ウォーク（御嵩宿－細久手宿）というイベントを10年以上実施している。
- ・中山道は欧米の人が多数来訪し昔ながらの宿に宿泊するなど、魅力ある地域資源を有している。
- ・鬼岩温泉も魅力的な地域資源の一つです。
- ・古民家を改修した1棟貸しの宿は、コロナ禍でも人気を有している。
- ・全ての市町にポテンシャルを有している地域資源があるので、迎える姿勢をとることが重要と考えている。
- ・単独で実施するのではなく、観光施設や宿泊施設等を2市2町で互いに紹介し、滞在箇所・滞在時間が増えるような地域連携を実施することが重要と考えている。

5) 小森 関西電力(株)東海支社長

- ・水力発電の理解促進や、木曾川水系の電源開発の歴史のPRのため、地域の自治体・子供会・小中学校等を中心に、水力発電設備の見学会の開催しており、年間約1000人参加している。
- ・また、主に小学生を対象とした出前教室「かんでん電気教室」を実施しており、年間約500～800名が参加している。
- ・ダム湖利用に関しては、ポーランドのカヌーチームが笠置ダム内の笠置峡ボート・カヌー場で東京2020オリンピックの事前キャンプを実施した時には、ハード、ソフト対策で協力している。
- ・カーボンニュートラルへの対応としては、太陽光オンサイトサービス、再エネECOプラン等のサービスを観光施設等で導入することも一つの取り組みになると考えている。

(6) 今後の予定について

- ・事務局より、「今後の予定」について、説明を行った。